

平成 21 年度第 1 回長野市立図書館協議会概要

- 1 日 時 平成 21 年 7 月 24 日（金）午後 2 時～ 4 時 10 分まで
- 2 場 所 南部図書館 2 階会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 8 名 大澤友子委員、大澤秀正委員、大葉津称子委員、小山公子委員、原田篤穂委員、松田安弘委員、丸山武志委員、森山環委員
(欠席 栗原久委員、小池博明委員)
 - (2) 事務局 8 名 生涯学習課：西沢課長、菊池主事
長野図書館：松木館長、常田館長補佐、宮澤係長
南部図書館：柳田館長、森山館長補佐、貝沢係長、稲葉係長

4 協議事項等

- (1) 委員長の選出・職務代理者の指名
- (2) 協議事項
 - ア平成 20 年度事業報告について
 - イ平成 21 年度事業計画について
 - ウ その他

5 会議資料

- (1)平成 21 年度図書館概要
- (2)中核市貸出密度の推移
- (3)長野市版ブックスタート事業概要

6 概 要

(委員長の選出・職務代理者の指名について)

事務局案により、委員長に信大教育学部推薦の栗原久委員を選出。また、委員長職務代理者に長野こども文庫連絡会推薦の森山環委員が指名された。

(主な協議内容：質疑・意見、回答・説明等)

事務局：本日は第 1 回の協議会であるため、資料の図書館概要に基づいて、まず、長野市立図書館全体の概要を説明し、続いて平成 20 年度事業報告と平成 21 年度事業計画を長野図書館、南部図書館からそれぞれ一括して説明した。

委 員：資料の各中核市を比較した貸出密度の表・グラフで、長野市の貸出密度が下位グループから中位グループに上がったということで、日ごろ図書館の職員が非常にご苦労されていることに感謝したい。

しかしこの貸出密度には、県立図書館が入っていない。先ほどの説明で芹田地区の利用率が少ないのは芹田地区に県立図書館があるためと考えられるとの説明があったが、県立がなければ市立を利用することとなる。県立図書館では 5、6 年前までは館外貸出をしていなかったが、現在は 2 階も下も全部貸出をしていて、県立図書館自体の機能・性格がずいぶん変わってきている。県立の数値も加えれば、もっと長野市の数値が高くなり上位グループに入るのではないか。

事務局：まず、一概に図書館といっても県立と市立図書館とでは基本的に性格が違う。市民に対する第一線のサービスをするのは市立図書館の役割となっている。

県立図書館の役割は、県全体を対象として市町村立図書館や図書館の無い市町村のバックアップで、これは市町村立に無い役割となっている。そういう面で資料構成も違っている。

県の職員の方にも市立図書館をよく利用いただいているが、県立図書館には読みたい本がないといわれる。また、県立は貸し出し数が年間 15・6 万冊で市立長野図書館の約 2 ヶ月分弱に当たる。

逆に、各種調査・研究等、専門資料などの対応は県立でなければできないものもある。

このようなことから、あくまでも市立図書館協議会では市立図書館のみの数値を使っている。

委員：インターネット予約について質問したい。登録者数の推移やリクエスト数の推移で、かなり増加しているのはネット予約によるものか。

事務局：リクエストの内訳を見ると、20 年度の長野図書館のネット予約が 13,000 件で、ほぼこの分が純増となっている。

委員：ネット利用をするときにユーザーの申請をすることとなると思うが、その申請者の時系列的な傾向はどうか。

また、去年と比べて伸びはどうか。昨年度からネット予約ができるようになり、私も大いに利用しているが、その利用状況はどうか。

事務局：手元に詳細の資料はないが、概略では、現在約 2,000 人弱の利用があり、毎月 5～7%の伸びとなっている。

また、昨年当初は少ない人数から始まったので最初の月は 30～40%の伸びがあったが、そのころに比べればだいぶ落ち着いてきている。実数でいうと、大体頭打ちとなっている。

委員：平成 20 年度の予約受付内訳で、ネット予約が 35%となっているが、今後、半年、一年先の動向をどう予想しているか。

事務局：予約件数では、1 日当たりの利用件数を見ると、最初のころは利用者が少ないこともあり 60 件程度で、最近では約 100 件となっている。以前ほど急激ではなく最近では微増となっている。

具体的には昨年 6 月の状況で、利用登録されていた方が約 625 人で、そのときネット予約が 1,000 件であった。現在は、3 倍の約 2,000 人弱の方が登録していて予約が 2,400 件であるから、登録者数の伸びの割には予約件数が伸びていない、傾向とすれば落ち着いてきているということになる。

委員：別の言い方で聞くとすると、6 月の時点でのカウンター、OPAC あつ太くんとネットそれぞれの予約数割合はどうなっているか。

事務局：それぞれの割合は今手持ちに無いが、今年 6 月の数値で、来館者とウェブからの予約件数ではウェブが 47.7%でウェブの割合が多くなっている。

委員：私はネットからの予約が専門なので、ネット予約が可能となり大変ありがたいと思っている。

しかし、長野市ではネット予約ではできるがネットからの削除ができない。

別の図書館ではネットで削除ができる。長野市でも電話での削除はできるとは聞いているがせつかくネットでつながっているのに面倒である。

予約後にもっと先に読みたい本があった場合にネットで変更ができないので、ネットで削除ができるようにできないか。そうすると 10 冊までは次の予約が可能となる。

事務局：現状ではシステム上できない。コンピュータのシステム上ではなく、職員を含め図書館の運営上で難しいということである。

ネットで受けたものを単に機械の中だけで取り消しをするだけならば可能である。しかしながら、他の図書館との予約受付の違いとして、他の図書館では何巻かセットの場合に、一度に予約されると 1 巻号から順番には配本していない。1 巻号から順番に予約をしてくださいとなっている。なぜかというとならば全て機械の中で行っているため何巻か通しての予約が受けられない。

長野市立図書館では、従来、紙で予約を受けているときから、1 度にはできないが巻号順に用意できるようにしており、この割り当て作業を人の手を使って調整しており、このサービスをするためにネットでのキャンセルを受けていない。

また、ウェブだけのサービスならよいが、コンピュータシステム上ではカウンターでの予約もネットでキャンセルができるので、これにも人手がかかっている。

委員：他の館ではユーザーの選択で、下巻が先に配本の通知が来た場合には、これをキャンセルし、上巻の配本を待つか、或いは、上巻をまず予約するかになる。いずれにせよ、キャンセルできないのは、ユーザーの側からすると利用しづらいシステムである。

人手を加えずに完全にシステム化した方がよいと思うが、ぜひご検討願いたい。

事務局：今のところこのような理由でネットでのキャンセルをやっていないが、可能かどうかを検討してまいりたい。

委員：別件だが、半分近くがネットを利用しているという状況から、図書館ユーザーに対して、図書館のインターネットを使って、顧客満足度調査をメールでしてほしい。現在すでに予約配本の連絡をしてくれるシステムがあるのだから、集計作業以外に基本的に費用はかからない。結果もホームページで公表していただければありがたい。

事務局：検討してまいりたい。

委員：私もこの3月にネット予約をしたが、70何番目でいまだにず〜と待っている状況である。後どのくらい待つのか、後何番目になったのかが分かるようにしてほしい。予約確認の画面で分かるようなればありがたい。

事務局：現状の長野市立図書館のシステムでは困難である。今後、システムの更新の際には検討していきたい。

委員：その問題は、おそらくコンピュータの中にデータはあると思われる。出力するだけではないかと思う。他の館では、「予約確認状況」という欄があるが。あまり待つようなら、取り消ししてほかの本を予約したい。

事務局：他の図書館のシステムをそのまま持ってきても、長野市では、長野、南部、移動図書館の間の本の動かし方の問題でできないものもある。

委員：レファレンス件数が急に減ってきているが、その理由は何か。

事務局：レファレンスといってもその内容が多岐にわたっており、ある項目の事実についての調査や質問から、資料があるかとの問い合わせまで色々ある。

単純な所蔵調査については、平成 18 年度まではレファレンス件数として数えていたが、件数がたいへん増えてきたため 19 年度からは単純な所蔵調査は件数から除いている。このため統計数値は急激に減っている。ただ、事実調査などについての質問は若干伸びている状況である。

(その他)

事務局：ブックスタート「おひざで絵本」事業概要について資料に基づき説明した。

なお、財政的な裏づけや議会对応などは、この 9 月議会でお願いできるように進めてまいりたいと考えている。

委員：細かなことだが、図書館の本は、館名のスタンプが本の上側に押しであり、電車等で読んでいる時に目立つので気になる。

図書館の本を借りて読んでいることが分かったほうが PR になって良いのかもしれないが、読んでいる本人としては気になるので、できればあまり他人に分からないように本の下側にできないか。

委員：私も図書館の本に関わっているが、できるだけ館名が分かったほうがよい、人に見えたほうがよいと思っている。

事務局：長野図書館では、以前は下に押ししていた時期もあった。南部図書館では、館名の隣に購入年度も押ししてある。各図書館では館名のスタンプにより、本の整理をしているので、一番分かりやすい位置ということでご理解をいただきたい。

委員：長野市にもう一つ図書館を造る計画は無いか。

事務局：平成 17 年度に有識者を含めた分館設置検討委員会を設置し、1 年間かけて検討してきた。その委員会からは、犀川を挟んで南北各 1 館ずつ分館を設置することが望ましいという提言をいただいている。

この提言を真摯に受け止めているが、財政的にも大変厳しい折、図書館の建設には多額の資金が必要となるため、既存の分室の拡充や移動図書館の役割等を含めて検討中であり、まだ、具体的なところまで進んでいないのが現状である。

委員：具体化するときには、有識者だけではなく、市民にアンケート調査をして意見

を聞いてほしい。そうすると裏づけができて説得力がある。なお、ネットを使ってお願いしたい。

事務局：現在、長野市では市庁舎や市民会館のあり方などはもちろん、市民から意見を聞くのがルールとなっている。図書館の分館についても、市としての案、方向性が出た段階で市民の皆さんの意見を聞いていきたいと考えている。

委員：こういう会議には始めて参加させていただいたが、皆さん非常に努力をされており大変勉強になった。これからもっと関心を持っていきたい。

委員：先ほどからインターネットの話が多く出ているが、私も含めてインターネットができない人も多いので、その辺も考えてほしい。

また、最近私のところにもアンケートが沢山きているが、アンケートには経費もかかるのでその辺も考えてほしいと思う。

委員：私もネットやOPACという話がよく分からなかった。県立長野図書館も近かったので利用していたが、ちょっと時代遅れの人間だとあらためて反省した。

子どもが大学で使って不要となった専門書を古本屋でも扱ってもらえず処分した。現在個人では不要になった高価な古い専門書などを活用するよい方法はないか研究してほしい。

委員：昨年、県の図書館大会を南部図書館を中心に長野で開催した折、信大の遠藤先生の講演の中で、長野県の大人は勉強をしていない。それが子どもにも移っているという話があった。

読書が全てとはいえないが、市民一人当たりの利用冊数が4.5冊という目標に達したことは、一つのバロメータになると思う。

共和小学校でも一人80冊借りましょうという目標を掲げているが、各自グラフをみながら借りている姿を見ると、やはり数字が全てではないが、数値的な目標を掲げることも大事ではないか。学校としても現場でがんばって行きたいと思っている。

事務局：いただいたご意見等は今後の図書館運営に反映してまいりたい。

本協議会の予定としては、任期の2年間に4回であるが、委員さんには協議会の場だけではなく、いろんな機会にご意見・ご指導をいただきたい。